

ライバルは昨日の自分

元氣な産声を上げて生まれてきてくれた日のことを今でもはつきりと覚えています。出産当日まで続いた悪阻の辛さも一瞬で吹き飛ばさほど、元氣に生まれてきてくれたことへの感謝と幸せに包まれた最高の日でした。

首の座り、寝返り、ハイハイ、少しゆっくりではあったものの順調に成長してくれていると思っていた日々でしたが、11ヶ月になってもつかみ食べをしようとせず、どんな工夫をすればいいのか？と思いググった私の目に飛び込んだ「自閉症」の文字。まさかと思いつつも調べれば調べるほどTの行動は特徴とされる項目に当てはまるばかりでした。そこから数週間は確かではないと思いつつも、どうして我が子なのだろうか？大きな障害を背負わせてしまったのだろうか？と自身を責めながら涙する日々が続きました。

泣くのに飽きたという表現が間違っていない程泣き続けた後、こんなことをしていても事態は変わらないと思い、一歳の誕生日を迎えると同時に療育センターの門を叩き、早期療育を始めましたが、この頃から歩行や発語の遅れなど、同い年の子達との大きな差が生まれ始めました。頭では理解しているつもりでも、悔しさや悲しみが常につきまとい、一歳半健診が数日後に迫っても歩けない現状に私が頭を抱えていたある日、全く歩く様子がなかったTがボールで遊んでいた兄と姉の仲間に入りたかったのか、ゲラゲラ笑いながら一歩、また一歩と足を前に進め始めたのです！歩幅が大きく、がに股、今思えば不格好な歩き方でしたが、

一歳半健診には手をつないで歩いて行くことが出来ました。本人も歩けるようになったことが嬉しかったのでしよう。とびっきりの自信を得た笑顔で会場まで歩みを進める姿を見た私は今までの自分を深く恥じました。周りと比べるのではなく自身の出来ることに喜びを感じ、成長している我が子に対し私は何を守ってきたのだろうか？親としてのプライド？体裁？出来ないことにフォーカスするのではなく、出来ること好きなことを伸ばし、Tの笑顔を増やす。これが自閉症を病としてではなく、Tの個性と受け入れられた瞬間でした。

あの日から三年半、五歳になったTには課題も山積みですが、園庭を走り回り、自分の意見は言葉でしっかり伝えられ、好きな子もできました♡肌に触れるもの、身につけるもの、拘りがあるTは上着から靴、リュックまで全身ミッキー。母の好みとは異なりますが、これも彼の個性と受け止め、好きなものを選択させることでお着替えや靴の脱ぎ履きも頑張れています。これでよし！と思えるようになった今、ライバルは昨日の自分！Tと共に成長し明るい未来を切り開いていきます。安心して成長してね！

Tくん（五歳）のお母さん